

## — 誰もが住みやすいまち「多文化共生社会」を目指して —

教育長 宇野成佳

昨年度、「外国人県民による多文化共生日本語スピーチコンテスト小学校の部」で、上位三人（母語がフィリピン語、ポルトガル語、中国語）に入賞した知立東小学校6年生の児童と話をすることがありました。その時に「日本語で好きな言葉は何ですか」と尋ねたところ、各自が、「挑戦」、「勇気」、「協力」。さらに、その理由を聞くと、「前向きな言葉」、「背中を押してくれる言葉」、「友達と楽しく活動できる言葉」でした。

三人から強く受けた印象は、将来への夢をもち、目標に向かって、今を大切に生きていく姿でした。3人とも、日本語を正しく理解し、生活場面に応じた話し方ができ、母語を交えながら話をしている様子は、とても頼もしく感じました。

続けて、学校生活について聞いてみると、日本を含めていろいろな国の言葉や食べ物、生活様式、文化などを普段から知ることができ、国際色豊かで、みんなと一緒に遊んだり、話したり、勉強したりすることができる学校生活の様子をととても楽しそうに話していました。

本市は、古くから鎌倉街道や東海道などの主要な街道が通る交通の要衝として発展してきました。そのため、人の交流が盛んで、様々な生活様式や文化芸術と出会い、既存のものから新たなものを創り出すのに恵まれた風土があります。現在、市内小中学生のうち外国にルーツのある子どもは約7%です。先ほどの子どもたちのように日本人も外国人も互いを理解し合い、交流し助け合い、誰もが豊かな心を育む教育環境を整えていきたいと考えています。

ところで、知立市は令和3年度SDGs未来都市に内閣府から選定されました。SDGs未来都市とは、SDGsの理念に沿った基本的・総合的取り組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通じて持続可能な開発を実現するポテンシャルが高いと国に選定された都市・地域です。知立市は、「多文化共生の未来都市知立を目指して～日本人・外国人誰一人取り残さない持続可能なまちづくり～」というタイトルの提案をし、選ばれました。

また、「知立市人権尊重のまち宣言」が9月議会で可決され、制定されます。一人ひとりが人権意識を向上し、互いを認め合い、尊重していく地域社会の実現に取り組み、「思いやりの心を育むまちづくり」を目指します。



\* SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の総称で、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採決された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。